

# 冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況

## □ 過去10年冬山シーズンの遭難発生状況

	冬山遭難発生件数				遭難者数							
	(件)	バックカントリースキー遭難		その他	(人)	バックカントリースキー遭難				その他		
		スキー登山	スキー			スキー登山		スキー		日本人	外国人	
						日本人	外国人	日本人	外国人			
平成19年	5	3		2	15	3					12	
平成20年	14	10		4	24	12	8				4	
平成21年	10	6		4	10	6					4	
平成22年	9	7		2	9	7					2	
平成23年	7	4		3	10	5					3	2
平成24年	17	9		8	22	7	3				12	
平成25年	7	2		5	11	1	1				9	
平成26年	23	6	9	8	31	4	2	13	4		8	
平成27年	56	8	37	11	69	7	1	23	25		13	
平成28年	47	9	27	11	57	6	3	17	17		12	2
合計	195	64	73	58	258	58	18	53	46		79	4

【冬山シーズン】とは  
北海道警察では、11月から翌年3月末までを冬山シーズンとして統計処理している。  
全国では地域により積雪時期等が異なるため、統一的基準はない。

平成26年シーズン以降、スキー場内から管理区域外に出て遭難した事案を統計に含めている。

## □ 過去10年冬山シーズンの遭難者(死傷者等別)

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	小計	合計				
死者数	バックカントリー	スキー登山		1	1	1		2(1)	1	1	3	10(1)	30 (3)				
		スキー	統計なし											2	1(1)	3(1)	
		その他	4	1			2(1)	3	2		3	2		17(1)			
負傷者数	バックカントリー	スキー登山		6	1	5	3	4(2)	1(1)	4(2)	2	4(2)	30(7)	91 (26)			
		スキー	統計なし										3(3)		13(8)	13(7)	29(18)
		その他	1	3	2	2	3(1)	4	5	5	5	2	32(1)				
無事	バックカントリー	スキー登山	3	13(8)	3	1	2	4		1	3(1)	5(1)	35(10)	135 (39)			
		スキー	統計なし										14(1)		33(17)	20(9)	67(27)
		その他	7		2			4	2	3	5	10(2)	33(2)				
行方不明	バックカントリー	スキー登山			1							1	2				
		スキー	統計なし														
		その他						1						1			
計	バックカントリー	スキー登山	3	20(8)	6	7	5	10(3)	2(1)	6(2)	8(1)	9(3)	76(18)	258 (68)			
		スキー	統計なし										17(4)		48(25)	34(17)	99(46)
		その他	12	4	4	2	5(2)	12	9	8	13	14(2)	83(4)				
合計		15	24(8)	10	9	10(2)	22(3)	11(1)	31(6)	69(26)	57(22)	258 (68)					

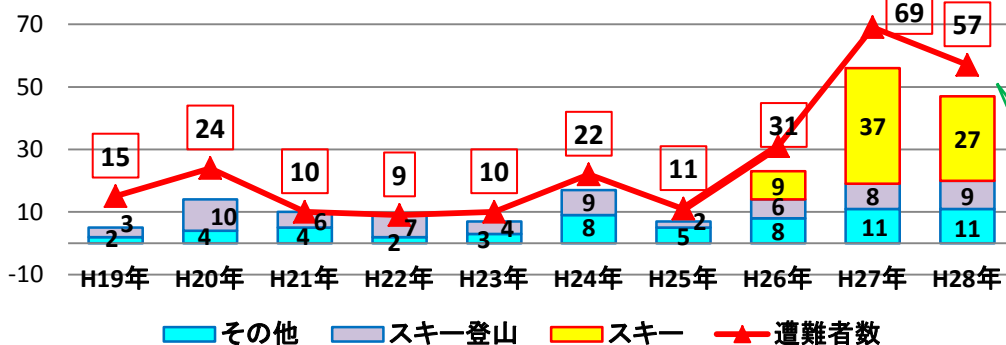
【バックカントリー】とは  
スキー登山とスキーを合計したもの。

【スキー登山】とは  
スキー場管理区域外の山岳において、リフト・ゴンドラ等を使わず、自力による登山行為を伴い、スキー等で登坂、滑降する行為をいう。

【スキー】とは  
登山行為を伴わず、リフト、ゴンドラ等で山の上へ移動し、スキー等でスキー場の管理区域外を滑降する行為をいう。

※ 括弧内は外国人遭難の人数で内数

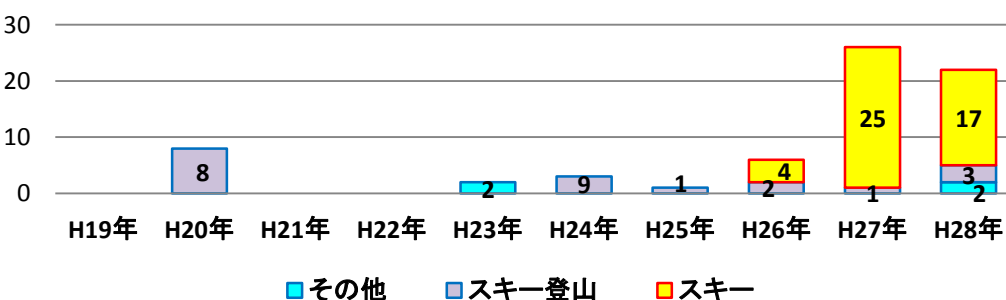
## 過去10年冬山シーズンの遭難発生状況



【その他】とは  
つぼ足、アイゼン、スノーシューによる登山で、スキー等での登坂、滑降行為がないもの。(アイスクライミングを含む)

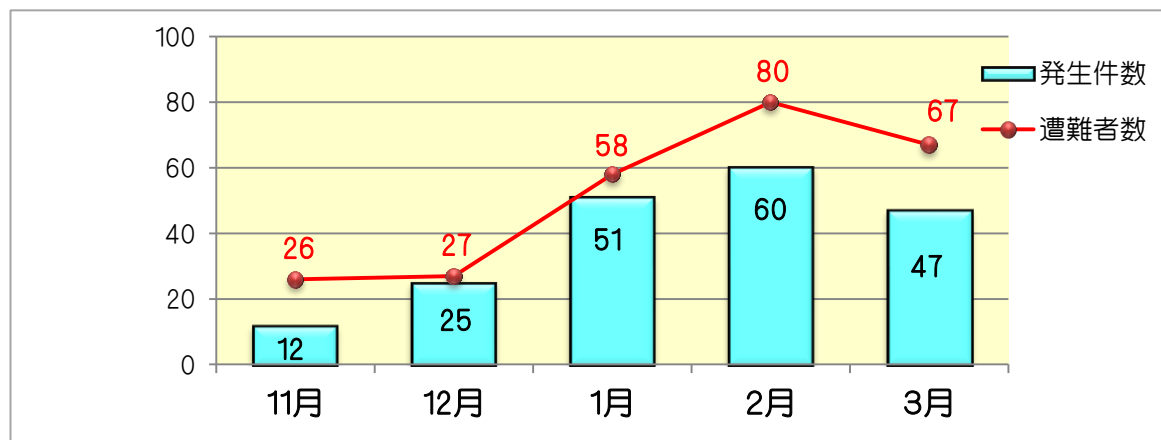
過去10年間で  
 □ 遭難件数 195件  
 内訳  
 ・その他 58件  
 ・スキー登山 64件  
 ・スキー 73件  
 □ 遭難者数 258人

## 過去10年冬山シーズン外国人の遭難人数



□ 過去10年冬山シーズン月別遭難発生状況

	11月	12月	1月	2月	3月	計
発生件数	12	25	51	60	47	195
遭難者数	26	27	58	80	67	258
死亡	6	4	5	7	8	30
負傷	10	7	24	31	19	91
無事	10	16	27	42	40	135
行方不明	0	0	2	0	0	2



□ 過去10年冬山シーズン雪崩遭難発生件数

	11月	12月	1月	2月	3月	合計
発生件数	2	1	4	4	5	16

□ 過去10年冬山シーズン雪崩遭難発生状況

No.	発生年月日	発生場所	登山形態	遭難者		死傷等別	
				日本人	外国人	日本人	外国人
1	平成19年11月13日	上ホロカメットク山	スキー登山	1		無事1	
2	平成19年11月23日	上ホロカメットク山	その他	11		死亡4、負傷1、無事6	
3	平成21年2月8日	ニトヌプリ	スキー登山	4		負傷2、無事2	
4	平成21年3月2日	羊蹄山	スキー登山	1		負傷1	
5	平成22年1月16日	尻別岳	スキー登山	1		死亡1	
6	平成23年1月1日	ニセコアンヌプリ	スキー登山	1		死亡1	
7	平成24年1月29日	尻別岳	スキー登山	1		負傷1	
8	平成24年12月16日	三段山	スキー登山	1		死亡1	
9	平成25年2月6日	羊蹄山	スキー登山		1		負傷1
10	平成25年3月3日	上ホロカメットク山	その他	2		負傷1、無事1	
11	平成25年3月28日	富良野岳	スキー登山		1		死亡1
12	平成27年1月23日	竹山(ルスツ村)	スキー		1		負傷1
13	平成27年2月12日	尻別岳	スキー登山		1		負傷1
14	平成27年3月11日	909m峰(赤井川村)	スキー登山	1		死亡1	
15	平成28年3月26日	羊蹄山	スキー登山	1		死亡1	
16	平成29年2月25日	ニセコアンヌプリ	スキー	1	1	負傷1	死亡1

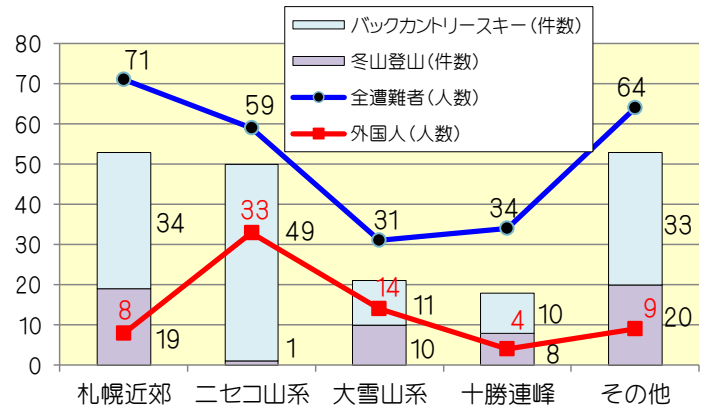
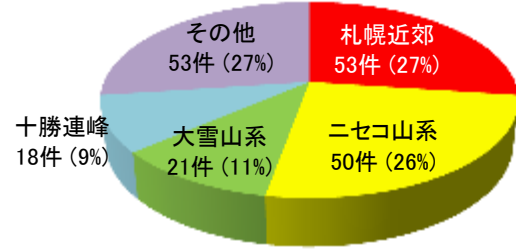
過去10年間で  
日本人26人  
・死亡 9人  
・負傷 7人  
・無事 10人  
外国人 5人  
・死亡 2人  
・負傷 3人

過去10年冬山シーズン山域別

過去10年冬山シーズンの主な山域別 ※件数

	札幌近郊	ニセコ山系	大雪山系	十勝連峰	その他
平成19年	2 (1)		1 (1)	2 (1)	
平成20年	4 (2)	3 (3)	2 (2)	2 (1)	3 (2)
平成21年	2 (2)	2 (2)	2	2 (1)	2 (1)
平成22年	2 (2)	1 (1)	1		5 (4)
平成23年	1 (1)	1 (1)	3 (1)	1	1 (1)
平成24年	2 (2)	3 (3)	1 (1)	3 (2)	8 (1)
平成25年	2			2 (1)	3 (1)
平成26年	8 (3)	6 (6)	2 (1)	1	6 (5)
平成27年	20 (15)	22 (21)	4 (2)	1 (1)	9 (6)
平成28年	10 (6)	12 (12)	5 (3)	4 (3)	16 (12)
計	53 (34)	50 (49)	21 (11)	18 (10)	53 (33)

※ 括弧内はバックカントリースキー遭難の件数で内数



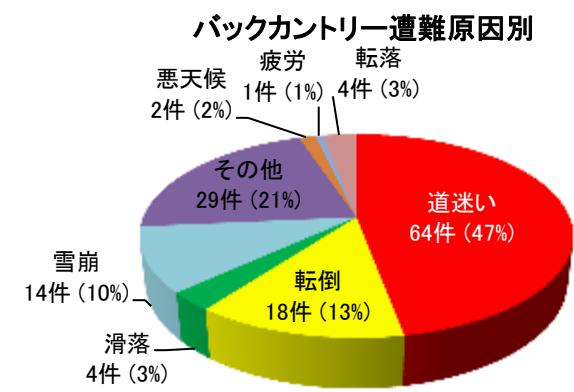
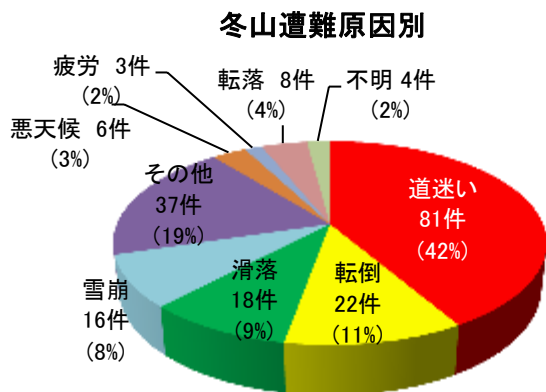
過去10年冬山シーズンの主な山岳別

	ニセコアンヌプリ						手稲山						旭岳														
	遭難件数		遭難者数				遭難件数		遭難者数				遭難件数		遭難者数												
	冬山登山	バックカントリー	冬山登山		バックカントリー		冬山登山	バックカントリー	冬山登山		バックカントリー		冬山登山	バックカントリー	冬山登山		バックカントリー										
			スキー	スキー	スキー	スキー			スキー	スキー	スキー	スキー			スキー	スキー											
平成19年																											
平成20年																											
平成21年																											
平成22年	1			1																							
平成23年												2		1	2												
平成24年												1					1										
平成25年																											
平成26年	1	3		1		3	1	1	1		1	1	1	1		1											
平成27年		15				4	13	9	6		7	6	1	1		1	1										
平成28年		12				6	7	2		1	1	2	3	2		3	2										
計	0	2	30	0	0	2	0	10	23	1	0	12	1	0	0	0	9	7	5	3	4	4	2	0	2	5	2

過去10年冬山シーズンの遭難原因別 ※件数

	道迷い	転倒	滑落	雪崩	その他	悪天候	疲労	転落	不明	計	その他内訳
平成19年	3(2)			2(1)						5(3)	
平成20年	5(5)	4(3)	2	2(2)				1		14(10)	
平成21年	3(3)		2	1(1)	2(1)		2(1)			10(6)	火傷、滑走中に他者と接触
平成22年	2(2)	1(1)	3(1)	1(1)	2(2)					9(7)	立木衝突(2件)
平成23年	4(2)		2(1)	1(1)						7(4)	
平成24年	7(4)		2	4(3)	2(2)	1			1	17(9)	立木衝突(2件)
平成25年	2	1(1)			1	2			1(1)	7(2)	落石
平成26年	7(5)	3(1)	4(2)	3(3)	2(2)	1(1)	1	2(1)		23(15)	立木衝突(2件)
平成27年	24(22)	7(6)	2	1(1)	16(13)	2(1)		3(2)	1	56(45)	立木衝突10、低体温2、装備不備2、病気2
平成28年	24(19)	6(6)	1	1(1)	12(9)			2(1)	1	47(36)	立木衝突8、バランス崩し、装備不備、体調不良、病気
計	81(64)	22(18)	18(4)	16(14)	37(29)	6(2)	3(1)	8(4)	4(1)	195(137)	

※ 括弧内はバックカントリースキー遭難の件数で内数



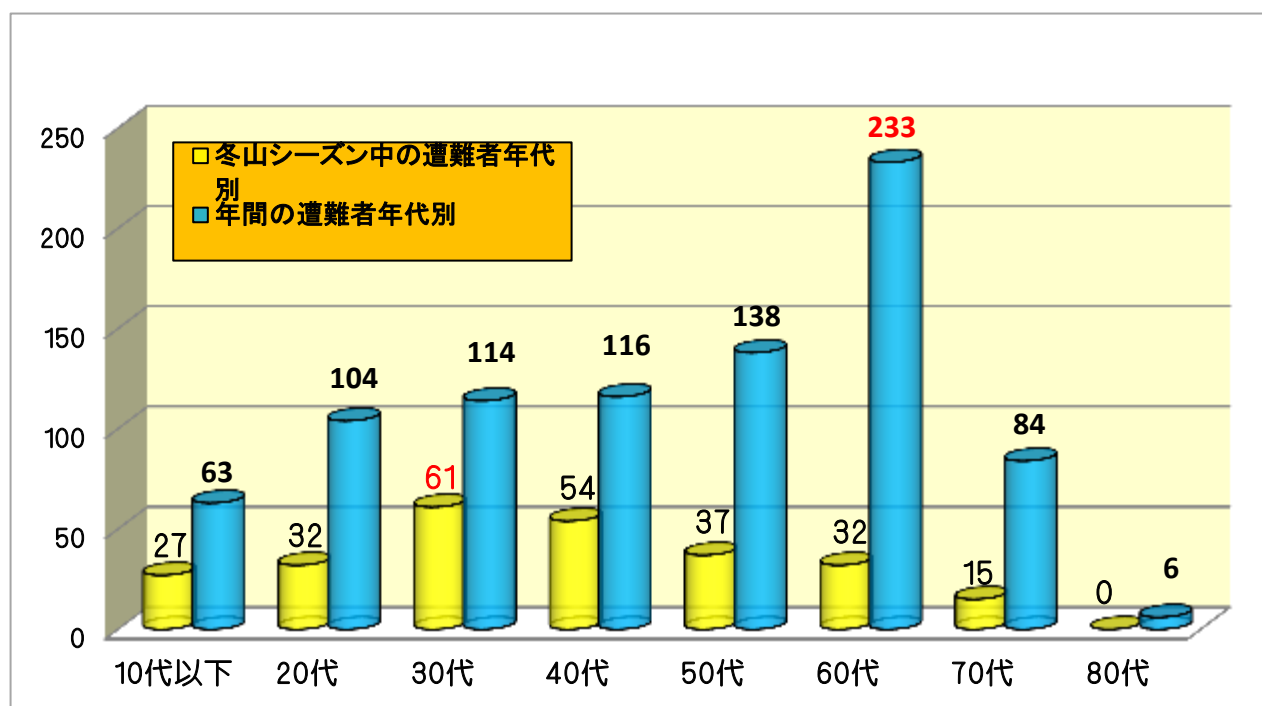
冬山シーズン中の遭難原因では「道迷い」が最も多く、過去10年冬山シーズンで81件(全体の42%)発生している。また、バックカントリースキーの遭難原因も「道迷い」が最も多く、過去10年冬山シーズンで64件(バックカントリースキー遭難全体の47%)発生している。雪山では標識や目印がない雪上を歩くので登山ルートを見失ったり、吹雪になると視界不良で進行方向が分からなくなる。

□ 過去10年間の遭難者年代別

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
平成19年	4	12	11	8	16	25	7	1	84
平成20年	2	2	5	5	9	12	4	0	39
平成21年	2	6	19	10	16	42	5	0	100
平成22年	5	9	4	5	16	25	8	0	72
平成23年	0	4	10	9	8	23	7	0	61
平成24年	2	18	8	9	13	22	10	1	83
平成25年	3	10	10	11	15	17	7	0	73
平成26年	1	11	9	10	8	11	9	0	59
平成27年	31	22	14	27	17	25	13	2	151
平成28年	13	10	24	22	20	31	14	2	136
計	63	104	114	116	138	233	84	6	858

□ 過去10年冬山シーズンの遭難者年代別

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
平成19年	1	1	1	1	3	8	0	0	15
平成20年	0	4	12	5	1	2	0	0	24
平成21年	1	1	4	2	0	2	0	0	10
平成22年	0	0	3	3	0	3	0	0	9
平成23年	1	2	1	2	0	3	1	0	10
平成24年	0	4	4	4	4	3	3	0	22
平成25年	0	3	0	1	5	1	1	0	11
平成26年	8	3	3	10	5	1	1	0	31
平成27年	12	5	17	15	10	3	7	0	69
平成28年	4	9	16	11	9	6	2	0	57
計	27	32	61	54	37	32	15	0	258



年間の遭難者を年代別で見ると、60代が233人と最も多く、全体の約27%を占めており、次いで50代の138人、40代の116人の順となっている。

冬山シーズンの遭難者を年代別で見ると、30代が61人と最も多く、全体の約24%を占めており、次いで40代の54人、50代の37人の順となっている。